

令和5年度 第1回宗像市地域公共交通会議 会議録要旨

|      |   |
|------|---|
| 日 時  | 令和5年9月29日(金) 14時30分～15時00分  |
| 場 所  | 宗像市役所2階 204会議室  |
| 出席者  | 【委員】高崎浩(会長)、田中昭彦、森正彦、赤瀬優(代理)、櫻井章生、香月肇光、高見邦雄、黒川貞一郎、寺尾悦治、吉田益美、大枝良直(副会長)、井料達己(代理)、宮地信裕<br>【オブザーバー】樋之口真美(代理)<br>【事務局】内田忠治、日野友和、小田淳、金子聡志、幸住瑠璃(都市再生課) |
| 開会   | 1 会長挨拶<br>2 新任委員の紹介<br>3 運営方針及び傍聴要領について   |
| 報告事項 | ふれあいバス・コミュニティバス・オンデマンドバスの利用状況   |

| 区分   | 発言内容等  |
|------|--|
| 高崎会長 | 開会<br>1 会長挨拶   |
| 事務局  | 2 新任委員の紹介<br>新たに就任いただいた委員の紹介<br>(田中委員、中島委員、香月委員、寺尾委員、吉田委員、傳委員)   |
| 事務局  | 3 運営方針及び傍聴要領について<br>昨年定めた運営方針及び傍聴要領に沿って会議を進める。   |
| 高崎会長 | 報告事項1 ふれあいバス・コミュニティバス・オンデマンドバスの利用状況について<br>事務局から説明をお願いする。  |
| 事務局  | ふれあいバス及びコミュニティバスの平成29年度から令和4年度までの利用者数について、またオンデマンドバスの令和4年度の利用者数や登録者数等について説明。   |
| 高崎会長 | 事務局から説明があつたが、質疑等はあるか。  |
| 吉田委員 | オンデマンドバスに関する報告にある、「ユニーク」利用者とは何か。   |
| 事務局  | オンデマンドバスは登録をしてからでないと利用できないが、「登録をした上で、利用されない方」もいる。ユニーク利用者数とは「登録をし、かつ利用した方の数」を指す。1人が1日に何度利用しても、ユニーク利用者数としては「1」となる。   |
| 吉田委員 | オンデマンドバスを導入する際に設定した目標と現状との差異は。   |
| 事務局  | 路線バスの代替交通として、オンデマンドバスを導入した背景があるが、導入前より1日あたりの利用者数は増えており、現在の利用状況は約170人/日である。また、登録をしないと利用できないこと、また日の里地区の人口が約11千人であることから、3年間での登録者数の目標を5千人としていた。現在約4,300人の登録があり、今年度中の目標達成を目指している。 |
| 黒川委員 | オンデマンドバスの乗降地点の次回の見直しはいつ頃を予定しているか。  |
| 事務局  | 今年度、宗像市地域公共交通計画を策定している中で、今後の取組を検討しているところである。その取組を考えていく上で、地域の意見を聴取する場を設ける予定である。   |
| 香月委員 | 高齢者の免許返納者に対するサービスは将来的に検討するのか。  |

|               |   |
|---------------|---|
| 事務局           | 現在、危機管理課で、免許返納者に対しふれあいバスやタクシーの乗車券等を配布しているが、それだけでは不十分と考えている。一方で、公共交通を利用してほしいという思いもあるため、今年度は南郷地区をモデル地区として「乗り方教室」の開催に向けた調整を行っている。免許返納を考えている方が、不安を感じることなく、ふれあいバス等の公共交通を使えるよう、自治会を回り「乗り方教室」を開催することで、高齢者の移動手段の確保に取り組んでいく。                                   |
| 吉田委員          | 全国には、利用されているにもかかわらず、働き方改革や乗務員不足でバスが廃線となっている地域もあるが、宗像市における西鉄バスの状況は如何か。   |
| 中島委員代理<br>赤瀬様 | 西鉄バスに限らず、バス業界全体で運転手が不足していることが一番の課題である。10月1日からダイヤ改正、減便を行う地域もあり、これは人手不足によるものである。また、「2024年問題」と呼ばれている、ドライバーの運転時間・拘束時間の短縮に向けた対応として、早朝・深夜の便を減らさざるを得ない状況である。そのような中、収支の悪い路線、利用者が少ない路線は車両サイズの見直しや別の輸送手段への転換を検討し、持続可能な交通を目指していきたいと考えている。                        |
| 田中委員          | 大阪府の金剛自動車では、バス乗務員を新たに採用したくても、人手が見つからず事業が続けられない状況であり、西鉄バス宗像においても近い状況である。本年6月に運賃改定の申請を行っており、初乗り料金が大きく上がる予定であるが、これは乗務員の待遇改善の原資とし、乗務員を確保していくためのものである。西鉄バス宗像も民間企業のため、経営ができるところ・できないところを判断していく必要がある。楽観視できる状況でないことは理解いただきたいが、なるべく地域に沿った形で事業を行っていききたいとは考えている。 |
| 森委員           | タクシーもコロナ禍以前と比べて7割近く、乗務員が減っている。赤字となる夜中には稼働していない地域もあるが、宗像市内のタクシー事業者においては、タクシーは公共交通機関であるという認識を持ち、運転手・配車係を置いている。全てのコミュニティバスがオンデマンドバスに置き換わると、タクシーは半分程の車両数になると思われるが、その場合は地域の要望に応えられる自信がない。全ての公共交通機関が共存共栄できればと思う。  |
| 高崎会長          | これをもって令和5年度第1回宗像市地域公共交通会議を終了する。   |

(以上)